令和7(2025)年度

10月中間評価

運営に関する計画

大阪市立 住吉中学校

（様式１）

大阪市立住吉中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１ 学校運営の中期目標

現状と課題

本校に通う多くの生徒は、教職員の適切な指導・支援により、「ルールを守って学校生活を楽しく過ごしたい」等、規範意識を高めながら明るい雰囲気で学校生活を送ることができている。これは、過去にPTAや地域の方による学校運営の正常化に向けた惜しまない支援があって現在に至っていることを忘れてはならない。

学力面においては、学年集団によって差があるものの、大阪市・大阪府の平均よりやや高く、全国平均レベルの学力で推移している。この要因は、漢字の書き取りや計算問題等の基礎学力の定着に取り組んでいることや、情報を多面的に読み取り、解決策や結論を見出す力を向上させるためのグループワークを活用した取組に一定の成果が得られたと考えられる。しかしながら、教科によっては、高得点層と低得点層の二極化が顕著に見られ、課題改善に向けた工夫が必要である。

生活面においては、現時点では落ち着いている様子ではあるが、複雑な家庭環境を背負う生徒やSNSによる表面的な人間関係しか形成できない生徒、小学生時から不登校が継続している生徒が増加している。リーダーを担うことなく自己肯定感が低下している生徒もいることから、本校が十数年前のような生徒が安心して学校生活を送れない状況に戻ってもおかしくないと認識している。

現代社会では、貧困、紛争、気候変動など、数多くの課題が直面している。だからこそ、本校がこれまで大切にしてきた人権総合学習を基盤としながら、生徒たちが課題を整理し、話し合い、考え行動できる実践を展開し、持続可能な社会を築くための継続した見守りが必要である。

また、本校では、教職員の大幅な入れ替わりにより、長年にわたって推進してきた教育活動の発展・継承に不安もある。しかしながら、この機会を前向きに捉え、生徒のニーズに合った教育活動の展開を最優先とし、生徒・教職員・地域の方など、すべての人が笑顔になるための学校づくりをめざしたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

〇令和7年度の校内調査における「学校生活は楽しい」、保護者アンケート「子どもは楽しく学校生活を送っている」に対して、肯定的な「よく当てはまる(やや当てはまる)」に回答する生徒・保護者の割合を 90%以上にする。

〇令和7年度の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」に回答する生徒の割合を 90%以上にする。

〇令和7年度末までの校内調査における、暴力行為を複数回行う加害生徒数を、毎年、前年度より減少させる。

〇令和7年度末までの校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を、毎年、前年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〇令和7年度の全国学力・学習状況調査、中学生チャレンジテストにおける平均正答率を、それぞれ全国・大阪府・大阪市の平均正答率より上回る。

○令和7年度の校内調査における「授業はよく理解できている」に対して、肯定的な「よく当てはまる(やや当てはまる)」に回答する生徒の割合を 90%以上にする。
○令和7年度の校内調査における「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることがでますか」に対して、肯定的な「よく当てはまる(やや当てはまる)」に回答する生徒の割合を 70%以上にする。
○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を全国平均と比較して 0.1ポイント以上向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】
○令和7年度の校内調査における「日々の学校活動で学習者用端末を活用している」に対して、肯定的な「毎日(ほぼ毎日)」に回答する生徒の割合を 100%にする。
○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を 85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】
○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。(前年度の全国学力・学習状況調査:86.4%)
○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」に回答する生徒の割合を 90%以上にする。(前年度の全国学力・学習状況調査:79.6%)
○年度末の校内調査における暴力行為を複数回行う加害生徒数を、前年度より減少させる。(前年度:1件)
○年度末の校内調査における、不登校生徒の新規数(不登校生徒のうち、前年度は不登校ではなかった生徒数)を前年度より減少させる。(前年度:3件)
○年度末の校内調査における、不登校生徒の改善の割合を前年度より増加させる。(前年度:77.3%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】
○中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント以上向上させる。
○中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント以上向上させる。
○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を 56.0%以上にする。(前年度:56.0%)
○年度末の校内調査における「授業はよく理解できている」に対して、「よく当てはまる(やや当てはまる)」に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。(前年度:90.0%))
○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。(前年度:47.0%)

〇年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」に回答する生徒の割合を 50%以上にする。（前年度：62.0%）

【学びを支える教育環境の充実】

〇授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50.0%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]

〇年度末の校内調査における「日々の学校活動で学習者用端末を活用している」に対して、肯定的な「毎日(ほぼ毎日)活用している」に回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度：97%）

〇教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を 85%以上にする。（前年度：54.8%）

〇年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。（前年度：100%）

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立住吉中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。(前年度の全国学力・学習状況調査：86.4%) ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」に回答する生徒の割合を 90%以上にする。(前年度の全国学力・学習状況調査：79.6%) ○年度末の校内調査における暴力行為を複数回行う加害生徒数を、前年度より減少させる。（前年度：1件） ○年度末の校内調査における、不登校生徒の新規数（不登校生徒のうち、前年度は不登校ではなかった生徒数）を前年度より減少させる。（前年度：3件） ○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。（前年度：77.3%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 全校集会や学年集会の場で、学校のきまりや規則についての話をしたり、生徒会集会で生徒から注意喚起を行ったりして意識付けをする。また、各生徒専門委員会から主体的な取組を組織する。(生活指導部) 指標 生徒アンケート「学校のルールを守って活動している」に対して、肯定的な「そう思う」に回答する生徒の割合を 90%以上とする。（前年度 99%）	A
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】 自立的な生活習慣や健康と美化に対する意識を高める。(健康教育部) 指標 生徒アンケート「清掃活動や学校生活全般で、校内美化に努めている」に対して、肯定的な「そう思う（どちらかと言えばそう思う）」に回答する生徒の割合を 90%以上とする。（前年度 93%）	A
取組内容③【2 豊かな心の育成】 「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育を推進する。(共生教育) 指標 個別の教育支援計画を作成し、年2回以上の検討会を実施する。また、障がいを理解する教育や男女共生教育を各学年1回以上実施する。（前年度 2回）	B

取組内容④【2 豊かな心の育成】 自己肯定感を育む系統的なキャリア教育や進路指導を充実させる。（教務部・進路指導） 指標 生徒アンケート「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」に対して、肯定的な「そう思う（どちらかと言えばそう思う）」に回答する生徒の割合を 85%以上とする。（前年度 93%）	B
取組内容⑤【2 豊かな心の育成】 人権教育年間指導計画に基づき教育実践を行い、人権感覚豊かな生徒（集団）の育成に努める。（地域連携係） 指標 生徒アンケート「まわりの友だちを大切に思って行動している」に対して、肯定的な「そう思う（どちらかと言えばそう思う）」に回答する生徒の割合を 90%以上とする。（前年度 98%）	B
取組内容⑥【2 豊かな心の育成】 多文化共生教育を推進する。（国際理解教育係） 指標 国際理解教育としての総合学習の場を設ける。平和学習や、国際理解教育を各学年で年2回以上行う。（前年度2回）	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① 生徒アンケート（7月）では、「学校のルールを守って活動している」の項目について、肯定的に回答した生徒の割合は 98%であった。生徒会集会など生徒たち自らが発信することにより、学校全体における規範意識の定着につながっていると考えられる。

② 生徒アンケート（7月）では、「清掃や学校生活全般で行内美化に努めている」の項目について、肯定的に回答した生徒の割合は 90%であった。引き続き、班活動の促進に重点を置き、清掃活動への意欲的な参加につなげていきたい。

③ 今年度、個別の教育支援計画を様式変更し、生徒や保護者にとって、より見やすく、わかりやすいように示している。検討会は1回実施し、後期の支援計画に向けた確認および修正を実施した。
人権総合学習では、1年生が共生学習、2年生が福祉学習を実施した。
また、外部から講師の方を招き、共生教育にかかる教職員研修を1回実施した。

④ 生徒アンケート（7月）では、「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の項目について、肯定的に回答した生徒の割合が 82%であった。学年に合った進路学習を計画的に実施するように進めている。

⑤ 生徒アンケート（7月）では、「まわりの友だちを大切に思って行動している」の項目について、肯定的に回答した生徒の割合は 98%であった。どの学年も年間指導計画に基づいて人権総合学習に取り組んでいる。

⑥ 全学年の生徒が1学期に平和学習の取組を行い、夏休みの平和人権登校日に学習成果を発表することができた。また、文化発表会にて国際クラブ（テヤンの会）の発表を行う予定で、伝統打楽器の演奏練習に励んでいる。

後期の改善点

① 名札等の服装・身だしなみへの意識や全校集会の整列時間への緊張感が薄れている生徒がみられることから、教職員から意識を高めるように取り組んでいきたい。

② 生徒会集会において、生活委員から清掃活動の改善についてアピールするとともに、ポスター掲示や清掃点検について検討する等、美化活動を推進させる。

③　全学年で助産師をゲストティーチャーに招いての性教育を計画通りに実施する。
　個別の支援計画に基づいて進める中、日々の達成状況を共有しあいながら検討会を実施する。
④　今後の進路や将来について考える授業を各学年計画実施していきたい。
⑤　引き続き、年間指導計画に基づいた教育実践に取り組み、人権感覚が豊かな生徒の育成に努めていきたい。
⑥　年間指導計画に基づき、各学年で多文化共生教育の取組を実施する。
　また、近隣の小学校との交流会を後期に予定している。国際クラブ（テヤンの会）での小中のつながりを強化していく。

(様式2)

大阪市立 住吉中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント以上向上させる。 ○中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント以上向上させる。 ○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を56.0%以上にする。（前年度：56.0%） ○年度末の校内調査における「授業はよく理解できている」に対して、「よく当てはまる(やや当てはまる)」に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。（前年度：90.0%）） ○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。（前年度：47.0%） ○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」に回答する生徒の割合を 50%以上にする。（前年度：62.0%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 少人数別授業・習熟度別授業・TTなどにより基礎基本の定着に取り組むとともに、授業研究や相互授業参観などを実施し、指導力向上に努める。（教務部）	B
指標 生徒アンケート「授業はよく理解できる」に対して、肯定的な「そう思う（どちらかと言えばそう思う）」に回答する生徒の割合を80%以上にする。（前年度 90%）	
取組内容②【4 国際社会において生き抜く力の育成】 豊かなコミュニケーション能力を身に付けるために、英語教育の充実を図る。（教務部・英語科）	
指標 各学年において、英語検定3級以上程度の生徒の割合を20%以上とする。 3年生についてはCEFRA1レベルの割合を56%以上とする。（前年度 63%）	
取組内容③【8 生涯学習の支援】 大阪府内にある人権・歴史・平和・文化などをテーマとした施設を訪問し、郷土大阪を学び、深める取組を行う。(地域連携係)	B

指標　1年生で人権施設、2年生で歴史・平和・文化施設のフィールドワークを年1回以上実施し、3年生の修学旅行では平和学習を含む人権学習に取り組む。（前年度各学年1回）	
取組内容④【5　健やかな体の育成】 運動に対する苦手意識を克服し、積極的に体力づくりに取り組む生徒をめざし、授業の工夫と部活動への積極的な参加を促す。（生活指導部・保健体育科）	
指標　全国体力・運動能力、運動習慣調査における運動能力の種目について、全国平均比1.01 以上とする。（前年度 0.97）	
取組内容⑤【5　健やかな体の育成】 食に関する指導に取り組み、心身の成長や健康の保持増進の上で、望ましい栄養や食事のとり方を学び、自ら管理していく能力を高める。　（健康教育部）	A
指標　生徒アンケート「朝食を食べている」に対して、肯定的な「そう思う（どちらかと言えばそう思う）」に回答する生徒の割合を 90%以上にする。（前年度 90%）	
取組内容⑥【9　家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 学習の習慣化や学習意欲の持続をめざし、学校元気アップ事業を活用し、自主学習会や長期休業中の補充学習会を行う。　（教務部）	B
指標　定期テスト前の自主学習会の実施。また、長期休業中の補充学習会を合わせて 20 時間以上実施する。（前年度 20 時間）	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① 生徒の調査結果はまだ出ていないが、相互授業参観や研究授業を計画通り進めており、授業力向上に努めている。
また、今年度よりメンター研修会も積極的に行い、若手教員の育成を進めている。
② 各学年 4 技能をバランスよく習得できるよう工夫している。C-NET の授業をできるだけ増やしネイティブな発音に触れながら、英会話できる場面を作るように工夫している。
③ 1年生は、地域の人権施設に訪問するなどして部落問題学習に取り組んだ。2年生は、後期に大阪府内にある人権・歴史・平和・文化などをテーマとした施設を訪問する予定である。3年生は、修学旅行の平和学習を通して、これまで学んできた平和学習の理解をさらに深めることができた。
④ 全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果が出ていないが、保健体育の授業時に補強運動を行うなど、概ね計画通りに進んでいる。
⑤ 生徒アンケート（7月）では、「朝食を毎朝食べている」の項目について、肯定的に回答した生徒の割合は 90%であった。どの学年も年間指導計画に基づき、概ね計画通り進んでいる。
⑥ 自主学習会は、元気アップ担当者を中心に計画通りに取り組んでいる。また、元気アップの事業を活用し、漢検の準会場なども計画実施している。

後期への改善点

① 生徒がよくわかると答えられる授業をめざし、各教科会で話し合う機会が必要である。さらに、ICT を効果的に活用した授業を目的とした校内研修についても検討したい。
② ライティングの量が減っているので、そこには力を入れながら、他の技能が現状維持できるように進めていきたい。
③ 引き続き、生徒たちが理解しやすい資料や施設を模索しながら、大阪府内にある人権・歴史・平和・文化などをテーマとした施設を訪問する取組を計画通りに進めたい。
④ 授業での補強運動を徹底することに加え、生徒が主体的に取り組める方法を模索し、生徒の基礎

体力の向上に取り組んでいく。

⑤ 後期に、生活委員を通して朝食に関するアンケートを行う。その結果の考察内容や栄養バランスの取れた食事の紹介を、食堂ホールなどに掲示し、朝食の大切さが再認識できるように取り組む。

⑥ 英検3級の合格率が中間反省の指標ともなっているが、放課後学習会と連携して、自習だけではなく、教科をしぼった学習会を取り入れることも検討する必要がある。

（様式2）

大阪市立住吉中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50.0%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] ○年度末の校内調査における「日々の学校活動で学習者用端末を活用している」に対して、肯定的な「毎日(ほぼ毎日)活用している」に回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度：97%） ○教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を 85%以上にする。（前年度：54.8%） ○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。（前年度：100%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 学習者用端末の環境を生かし、生徒の心の状態や日々の生活の状況を可視化、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応ができるよう取り組む。(教務部) 指標 授業日においては、学習者用端末を活用する割合が 70%以上にする。	B
取組内容②【6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ICT 機器を活用し、デジタルドリルや協働学習支援ツールを活用することで子どもの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びに取り組む。 (授業改善推進委員会) 指標 授業プリントや事前学習用の動画等、各教科における授業教材の 50%以上を学習者用端末の活用により学習できるよう準備する。	B
取組内容③【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 授業研究や相互授業参観などを実施し、指導力向上に努める。(教務部) 指標 教員全員の年1回以上の公開授業と年6回の校内研究授業・協議を行う。（前年度 全教員：1回 研究授業・協議：3クラス×2回）	B
取組内容④【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、「仕事と生活の両立支援プラン」等も踏まえ教員が働きやすい環境を整えるように努める。(主任会) 指標 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にすると共に、授業を4限までとする「ゆとりの日」を学期に1回以上実施し、時間外勤務実績の削減に努める。（前年度 有給休暇取得：80% ゆとりの日：6回）	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 朝夕の心の天気の入力を呼びかけることにより、日々の生活の状況を可視化することに努めている。 ② 各教科で学習者用端末を活用する課題を出しているが、すべての教科で50%以上にはなっていない。 ③ 年間計画通りに研究授業を進めている。 ④ 年次有給休暇を5日以上取得した教職員の割合は、9月末時点で 85%であった。ゆとりの日は、9月末時点で5回設定しており、目標以上に達成できている。
後期への改善点
① 学校全体で心の天気などの入力を呼びかけていく必要がある。長期欠席者が割合に含まれていることから、割合の算出方法の見直しや長期欠席者が家庭内で活用できる方法について検討する必要がある。 ② 各教科会で50%以上となっているか確認し、授業での活用方法を共有する必要がある。 ③ 2学期に1年生、3学期に2年生を対象として研究授業を計画している。 ④ 時間外勤務実績に大きな差があることから、休日の部活動を行う時間や、業務を主担当者以外に分散させる方法について検討する必要がある。